

「青紅葉」

紅葉といえば秋の風景を思い起こさせますが、この絵は6月頃の京都・南禅寺の青紅葉に挑戦したものです。

京都市内は昨今では沢山の観光客で市民の生活に支障があるなどのニュースを耳にしますが、この作品の景色は日本に観光客を誘致しなければ観光立国を目指して頑張っていた頃と記憶しています。

禅宗は鎌倉時代に中国から持ち込まれ、鎌倉仏教として受け入れられ、以降武士や庶民に広まり日本の仏教の1つとなりました。南禅寺は1289年(正応4年(鎌倉時代))、龜山法王(天皇、上皇を経ての位)が無間普門禅師の徳をたたえ開山させた禅寺です。南禅寺は臨済宗南禅寺派の大本山で、日本の禅寺の最高位に位置づけられています。

禅は発祥した中国では定着することはありませんでした。一方日本では鎌倉文化さらには室町文化と融合し、日本の文化に大きな影響を与えています。華美や無駄を排する様式は、武家や庶民の生活の有り様や茶道、華道、芸術にも反映されてきました。禅を日本の宗教として世界で捉えられるようになったのもこのような背景があるからでしょう。

この絵は、高さ22mもある三門(日本三大門の1つ)から法堂を見たものです。天気は梅雨のさなか、傘がいるかいないかの空模様でした。参道は石畳でその周りに玉砂利が敷き詰められ、紅葉はスッキリとした黄緑の若葉を纏い、木の下のは生き生きと輝き、参拝者を静寂の中に包み込んでくれました。

昨今のオーバーツーリズムでこの環境が痛んでいなければ良いのですが。マナーは大切にしたいものですね。



菊岡 保人

Size : 530×455mm (F10)

